

エネルギー総合研究所の取り組み ～「夢ある未来づくりへの挑戦」へ向けて～

エネルギー総合研究所 企画・管理担当 福澄 博道
河内 清次



1 はじめに

昨今の当社を取り巻く事業環境を見ると、不確実性が高まってきていると言わざるを得ず、これは、研究開発においても同様である。このような中では、戦略タイプの研究開発の重要度が高まると言われており、エネルギー総合研究所においても、中長期的な視点での研究開発に向けて「エネルギー総合研究所 研究開発ビジョン」を策定し、取り組みを始めている。

また、本取り組みや、人材育成・技術継承のためにも、当所が保有する技術、およびそのレベルを認識しておくことは重要であるため、保有技術のマップ作成や評価を行っている。

さらに、様々な技術分野を知ることにより発想の転換を図り、効果的・効率的な研究開発を推進するため、当所の担当の壁を取り払っての自由な意見交換の機会設置や他業界との意見交換を実施している。

本稿では、これらの取り組みを紹介する。

2 研究開発ビジョンの策定

当所では、これまで中国電力グループ、地域のお客さまや企業からの期待に応える成果創出を目指し、様々な研究開発を実施してきたが、短中期的な視点での研究開発が中心であった。しかしながら、不確実性の高い事業環境においては、中長期的な視点を持つとともに、様々な可能性を考えて事業環境想定範囲を拡大した上で、研究開発に取り組む必要があると考えられる。

そこで、シナリオプランニング手法を用いて、20年程度先の複数の事業環境想定シナリオを描き、それらシナリオから研究課題を抽出した。そして、抽出課題から、当所が取り組むべき研究開発をロードマップへ時系列に展開してビジョンとして掲げ、研究開発を推進している。

3 保有技術のマップと評価

今後の研究開発や人材育成・技術継承等へ活用するため、当所が現在保有している技術をマップとして整理した（図1参照）。

また、この評価に当たっては、研究で得られた特許の分析や、研究成果の販売実績・社内実用化実績等を

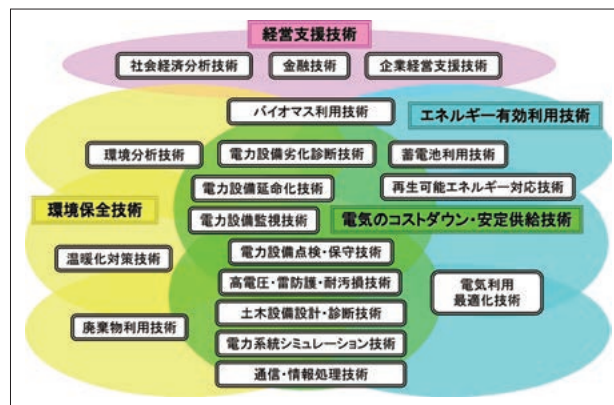


図1 保有技術のマップ（一部抜粋）

指標にして、各保有技術のレベルをできる限り客観的に評価した。

なお、確実な技術継承・人材育成へつなげていくためには、これら保有技術のマップ更新や評価を定期的に実施し、傾向を把握する必要があると考えている。

4 異分野の知見活用等へ向けた取り組み

図1にあるような様々な技術分野の知見を当所内で広く活用することにより、研究課題の解決やアイデア創出へつなげるため、研究テーマの意見交換会を開催し、分野が異なる担当間の情報共有・意見交換を行っている。また、技術・知識の共有化等のため、所員同士のコミュニケーション活性化、相談しやすい雰囲気の醸成に向けて、担当の異なる7名程度の班を編成し、より身近な課題を話し合う情報交換会を設置している。

これらに加え、他社保有技術の活用による研究課題の解決やスピードアップ、発想の転換、当所保有技術の他社活用等に向けて、他業界と研究開発等に関する意見交換を開始した。

5 終わりに

ここで紹介したほかにも、様々な取り組みを行っている。例えば、今回紹介した研究開発ビジョンに関連する取り組みとして、各研究担当では本ビジョンをベースに、より専門的な技術に関する担当ビジョンを策定している。これらの取り組み等を通じて、当所研究開発ビジョンのキャッチフレーズである「夢ある未来づくりへの挑戦」を実践している。